

# 若狭ネット

第128号 2011年 3月 1日

発行：若狭連帯行動ネットワーク

代表連絡先●福井：「止めなくちゃ！

げんぱつ」連絡会(〒915-0235 越前市不老町6-36 山崎方 TEL0778-42-3630)●大阪：日高原発に  
反対する大阪の会(〒583-0007 藤井寺市林5-8-20-401 久保方 TEL/FAX 0729-39-5660)  
ホームページ <http://www4.ocn.ne.jp/~wakasant/> E-mail : wakasa@gaea.ocn.ne.jp

## 2月9日 美浜2号炉事故から20年

### 関西電力に脱原発を申し入れました

#### もんじゅに異議あり

### 毎日5500万円の血税と炉内装置落下事故復旧に

### 計17億5千万円が必要だって……？

### 金食い虫「もんじゅ」をもうやめるべき

ヒロシマ・ナガサキ原爆投下から66年、チェルノブイリ原発事故から25年が経ちました。

核兵器廃棄の闘い、核軍縮の闘い、核被害というヒバクを許さない闘いの大きな節目となる年にしていかなければなりません。「原子力をクリーンエネルギーと位置づける」間違ったださねば成りません。国は、高速増殖炉開発をはじめ、原発・核燃料サイクル推進、「地元買取」、原発輸出の推進を原子力推進予算としてあげています。

#### 金食い虫「もんじゅ」の動きは

「もんじゅ」では 昨年8月に落下、破損した炉内中継装置(3.3トン)を再び造るのに4億4千万円かかるといいます。破損した装置の調査や撤去の費用(13億1千万円)を含め、なんと復旧費用は計17億5千万円に上るといいます。

設計ミスを犯した東芝と、装置の撤去に必要な設備の製作、仮設などと随意契約しました。設計ミスは、2月24日の有識者検討委員会で、原因は「装置をつり上げる機器の設計ミス」と断

定しました。

装置をつり上げる部分でネジが緩み、機器が不必要に回転し、つり上げるためのつめが装置にかみ合わなくなっていたという設計ミスでした。再現実験の結果、機器を33回動かすとネジが振動で完全に緩むことがわかったのです。こんなお粗末さで、本格運転に入る時期を、12年度末から13年度内に延期すると発表しています。延期している中でも1日約5500万円の税金を無駄遣いしているのです。「もんじゅ」を廃炉にすべきです。

#### 「もんじゅ」課長が自殺

誤って落とした燃料の炉内中継装置が破損し抜けなくなったトラブルで、装置を現場で担当していた燃料環境課長(57)が自殺していたことが分かったと報じられました。複数の関係者によると、課長は休日の今月13日、家族に「ちょっと出てくる」と伝えて外出したまま戻らなかったため、敦賀署に捜索願が出されていました。数日後、同市内の山中で遺体が発見されたというのです。夢のなくなったもんじゅ、重大事故

の危険性が増すもんじゅを止めていかねばならない一つの証しです。

### 敦賀半島にある原発の動きは、 敦賀原発の着工期が遅れる---3、4号炉

日本原子力発電は敦賀原発3、4号炉の着工をともに2012年3月におこない、運転開始は3号が2017年7月、4号が2018年7月に延期すると発表しました。

しかし、原発認可のための耐震の審議が継続している現時点で、この工程が確実に実施できるかどうか理解するのは難しいし、2016年に予定する1号炉の廃炉から3号炉の運転開始まで“空白期間”が生じる問題では、3号の運転開始の9カ月前には試運転が始まり、地元経済への影響は問題がないとしています。この日本原電の動きは、電気を買う関電の動きとも連動しています。美浜1号の運転延長問題、4号炉増設の動きに大きな影響を及ぼします。注目しておかねばなりません。

### 25年前の4月26日は、・・・

25年前、1986年4月26日、午前1時24分。日本から8千キロ離れたチェルノブイリ原子力発電所で、重大事故発生。核暴走、炉心がむき出しになり、大量の放射能が大気中に放出されました。

放射エネルギーは、広島原爆のおよそ600発分にも及び、風に乗って北半球全体に、日本でもばらまかれたのです。

原発のあるウクライナ、そしてロシア、ベラルーシの三つの国々だけでも、日本の国土の40%にも相当する広大な土地が、危険な放射能汚染地域となってしまったのです。特に、風下にあるベラルーシ国民の20%、なんと250万人もの人々が、「チェルノブイリのヒバクシャ」となっていました。

ベラルーシの小さな村クラスノポーリエでは、汚染地域からの移住などのため、事故前には2万人余りあった人口が、半減してしまいました。

25年経った今も立ち入りが禁止されています。

### 移住者の会 ターニャさんのこと

ベラルーシの首都ミンスクのマリノフカ地区に移住した「移住者の会」の一員ターニャさん。

「ベラルーシの高汚染地から移住が始まったのは、事故後4～5年も経ってからのこと。移住するまでの間に、すでに私たちはヒバクしてしまったのです。そして慣れない都会での新しい仕事や生活のストレス。心ない周囲の人からは『チェルノブイリ人』と言われて差別もされました。」と。

来日したターニャさんは「地球はとても壊れやすいの。だから大人たちには、私たちの星をおもちゃにしないでと、伝えてね。」と、日本の子どもたちにも語りかけてくれました。

ターニャさんが、脳腫瘍と診断されたのは、二年前のこと。手術、抗癌剤、そして放射線治療を受けながら、闘病中の自画像。「歪んだ顔」の下には、「チェルノブイリ、黒い運命、痛み、悲しみ」と、書き込まれています。昨年夏、病床で何度も「ありがとう」の言葉を繰り返して、ターニャさんは帰らぬ人となりました。まだ50歳でした。

### チェルノブイリヒバクシャ救援関西 と共に

日本では、今も原発を世界に設置させ、経営を拡大させようとする大きな勢力が存在します。

でも、もういちど冷静に考えてみて下さい。ひとつでも、チェルノブイリのような事故が起これば、被害は想像を絶するものとなるのです。地球は動いているのです。全世界で地震が多発しています。地震の多い日本は、耐震性に問題のある原発について今一度見つめ直さないといけないのです。

この4月下旬、クラスノポーリエから教師のエレーナさん、大学生のカーチャさんを招いて、関西各地で交流を行います。ベラルーシの若

い世代の彼女たちと、事故を知らない日本の若い人たちと、そして私たちの活動を支えて下さる多くの皆さんとともに、「チェルノブイリ事故がもたらしたものは何か」、「私たちの将来のために、ともに手をたずさえ、何ができるのか」、語り

合いたいと思います。

チェルノブイリヒバクシャ救援関西と共に若狭ネットも一連の動きに賛同します。

共に参加して大いに話し合しましょう。

## 2月21日、25日と中国電力に抗議 上関原発建設反対

<2月21日>

### **私たちは中国電力の暴挙を許せません。埋めたて工事の中止を**

貴社は2月21日未明、信じられない時間帯に 埋めたて工事の実際作業を強行してきました。地域住民、とりわけ予定地对岸に住む祝島島民の同意や理解もない中での工事の強行に対して、万感の怒りを込めて抗議します。

貴社は約30年もの間、祝島島民など上関原発建設に反対する人たちの切実な反対の思いを真摯に聞くことなく、何が何でも工事を強行しようとする企業の対応に不信感すら覚えます。

この地域を愛し、生活の糧としている祝島の漁業者の方々が約10億8000万円もの漁業補償金の受け取りを拒否して自分たちの生活を守り、豊かな海や自然をつぎの世代に残す意思を示していきます。原発建設に反対しているのです。

また自然豊かな地域として、カンムリウミスズメなど希少な動植物の調査が十分行われていないことを学会等に指摘されていることや、予定地の陸・海域はCOP10(生物多様性国際会議)でも注目されたほどの「奇跡の海」で、原発推進のための 埋めたて工事という自然破壊は許されません。

また、驚くべきことに国の原子炉設置の許可も出されていないうちに、先に埋め立て工事をしようとしていることは、法律違反でありめっちゃくちゃな行為と断じざる終えず、厳しく糾弾します。

今回の行為に対してに反省をし、工事を即刻中止することを強く求めるものです。

<2月25日>

**私たちは、けが人を出してでも  
工事を強行しようとする中国電力の  
暴挙を許せません。  
工事を中止して下さい**

## チェルノブイリ25周年 交流企画

平和への種ともなれば —ヒロシマ・ナガサキからチェルノブイリへ—

4月 2日(土) 午後2時半から **「バレエダンスの表現」**

場 所: ピッコロシアター 大ホール

(JR宝塚線「塚口」駅下車 西出口より西へ徒歩5分)

主 催: チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西 たなか 0797-74-6091

共 催: ダンスコアポシブル こたに 090-5647-0751

★以下のチェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西の企画に、若狭ネットも共催します

4月7日～4月12日 **「チェルノブイリ子どもたちの絵・写真展」**

場 所: 大阪市立総合生涯学習センターギャラリーA(大阪駅前第2ビル)

4月24日(日) 午後1時半から

**「チェルノブイリ被災地ベラルーシの汚染地区から**

**教師・大学生を迎えて交流・報告会」**

場 所: 毎日インテシオ4階会議室D (大阪梅田「毎日新聞ビル」隣)

4月26日(火) 午後2時から **関西電力本社訪問**

**3月20日(日) 午後2時～午後5時**

**上関の自然を守ろう！原発建設を止めよう！関西の集い**

講演: 向井 宏 京大フィールド科学教育研究センター特任教授

**「上関の海の生き物の多様性と重要性、原発の問題点」**

場 所: エル・おおさか(天満橋) 2F文化プラザ

主 催: 地球救出アクション97 いなおか072-336-7201

原発の危険性を考える宝塚の会 なかがわ0797-88-1381

**4月10日(日) 午前10時～午後5時**

**国際シンポジウム“カムリウミスズメと上関(瀬戸内海)の生物多様性”**

**～ホットスポット 奇跡の海を守ろう～**

場 所 広島市平和公園内 国際会議場

主 催 長島の自然を守る会

